

屋久島へ行ってきた ー写真集ー

日程 2017年6月5日(月)～8日(金)

当初は乗り合いバスと観光バスだけで行ける所まで行こうと思っていたが、それでは面白くないということで、あまり歩きたいとは思わなかったが、縄文杉も目指すことにした。また、楽天トラベルから屋久島2(フェリーの名前)タイアッププランの宿を選ぶとフェリー運賃が15%引きになるので、そのプランで宮之浦の「民宿いわかわ」に泊まった。

1日目 6月5日(月) 鹿児島港から屋久島へ

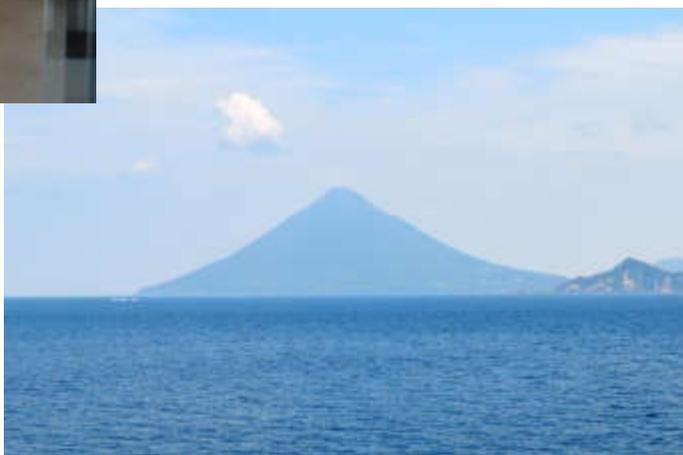
フェリー「屋久島2」は鹿児島本港南埠頭8時30分発なので北九州からだだと前泊しないとこれに間に合わない。それで南埠頭に近い「ビジネスホテル オリエンタルいづろ」という所に前泊した。このホテルは鹿児島市電の「いづろ通」のすぐ側にある。このホテルから南埠頭まで歩いて10分ということだったが、フェリー乗り場確認も兼ねて前日歩いて検証したが、いやあ、年寄りの足では20分はかかると思う。まあ、ともあれフェリーにはちゃんと間に合った。

屋久島2 結構大きな船だ。



フェリーは全席自由席、大部屋でごろ寝するもよし、最上階の展望サロンで寝るもよし。客は少なく、ほぼ貸し切り状態だった。私はこの展望席に陣取ってずっと外を眺めていた。

フェリーから開聞岳を望む。鹿児島港を出発して鹿児島湾の湾口まで約2時間かかった。屋久島まではあと2時間くらいだ。





宮之浦港が見えてきた。

「舫（もや）い綱」を渡すのにぶん回し法と砲筒があった。

ぶん回しロープのおもりの先端



砲筒の先端から煙り

屋久島2から下船する乗客



下船後、少し歩いて（10分弱）環境文化村センター内の観光案内所へ。ここで島内乗り放題の路線バス券を購入。4日で4000円、2、3日は3000円。4日分を購入。バスに乗る距離が長いほどその都度払うよりは格安。この日は屋久杉自然館へ行く予定にしていたのだが、事情不案内でもたもたし、目的のバスに乗れなかった。というのは、インターネット上で調べたバスの時刻が古いものであり、それで最初の予定がつかずいた。結局、白谷雲水峡へ行き、午後の半日を過ごした。白谷雲水峡は2日後に行った島内一周観光バスのコースに含まれていて、重複した。3日目の項で雲水峡の写真を提示する。

2日目 6月6日(火): 縄文杉に挑戦

この行程は、縄文杉への入り口である荒川登山口から往復 8~10 時間のコースらしい。日頃トレッキングや山登りをしたことがない自分にはどれくらいの負荷がかかるかさえ想像できなかった。ただ、往復 10 時間は歩かなければならないということだけ分かっていた。これだけでも相当の負荷だ。

それでも、さる 5 月 28 日(日)に第一観光の「くじゅう高原坊ガツルと法華院と星生温泉」という日帰り旅行で 6 時間くらい歩いた。さて、どうなることか。

縄文杉登山は往復 10 時間もかかるコースなので、そこに行くための路線バスも早朝のものしかない。それで、民宿いわかわのとなりにある八百八という仕出し屋にいわかわを通じて朝飯と昼飯の弁当を頼んでおいた。

バスの出発時刻は宮之浦バス停 4 時 48 分である。早朝 4 時頃に八百八に行ってみると真っ暗であった。幸い電話番号が店の看板に出ていたのをメモして民宿に戻った。市外局番が分からなかったからだ。何かの資料で市外局番を調べて部屋から八百八に電話した。今から弁当を取りにいいかと。なかなか電話に出なかったが、もちろん OK だった。部屋で朝弁当を食べて準備完了。



バスは時刻通りに来た。まだ暗かった。ここから屋久杉自然館前まで行き、そこから荒川登山バスに乗り換え登山口まで行く。この荒川登山バスはフリーパスが使えないので別途料金を支払った。

この日の屋久島の日の出時間 5 時 15 分。写真はまだ日の出前の 5 時 10 分頃。手前は屋久島空港の滑走路、水平線がまっすぐでないのは種子島があるから。

屋久杉自然館前バス停。ここで荒川登山バスの切符を購入する。



荒川登山口に至る景色。これは帰路に撮影。

荒川登山口。これも帰路の写真。早朝の登山口は登山者がかなりいた。右側に管理事務所があり、ここで入山料を払う。トイレもある。

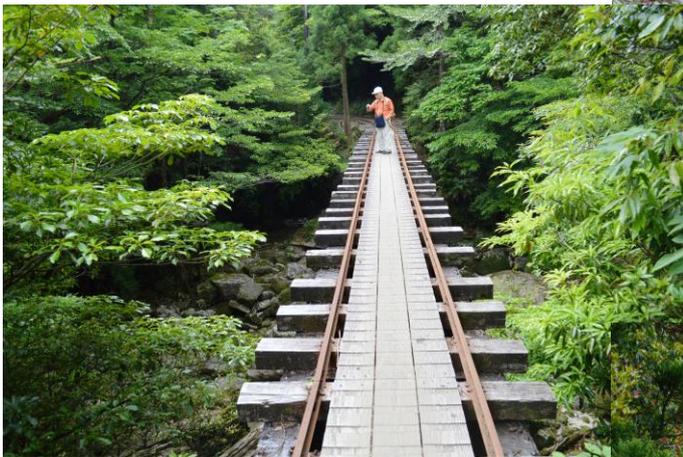


登山口からの標高と距離

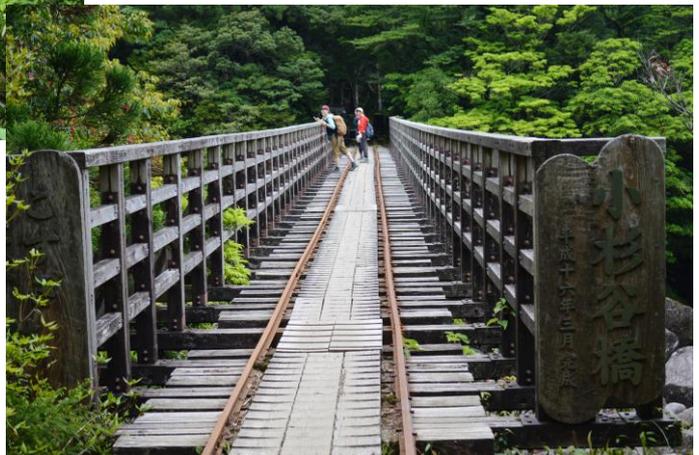


登山道は、登山口から大株歩道まではトロッコ道で比較的歩きやすい。大株歩道からは、その名の通り、大株や岩の合間を縫った登山となる。傾斜もトロッコ道よりは大きくなり、足腰に負担の大きい険しい道となる。

トロッコ道は途中までは枕木だが、途中から板が敷いてあり、歩きやすくなる。枕木のピッチが歩幅に合わないで、行きはあまり感じないが、帰りはかなり疲れる。線路の横に余裕があればそこを歩くとよい。



多分「安房川」と思うが川をまたぐ鉄橋は欄干があるのと無いがある。欄干のない鉄橋を渡る時私は足がすくんだ。早々と渡って写真を撮った。



この日の結論を先に書いておこう。

縄文杉を目指したのだけれども、ウィルソン株まで行ってへとへとなり縄文杉を諦めここからUターンすることにした。ウィルソン株から縄文杉まではさらに険しい道程で、足腰を痛めると下りるのもままなりませんよ、とよそのガイドが言う。さらに、諦める勇気も必要だ、とも。距離的には全体の4分の3程度まで来たが、体力・気力の限界を感じた。それにしても帰りの下りもきつかったなあ。

以下、ウィルソン株から登山口までの写真をいくつか載せる。上りのときに撮った写真も含む。



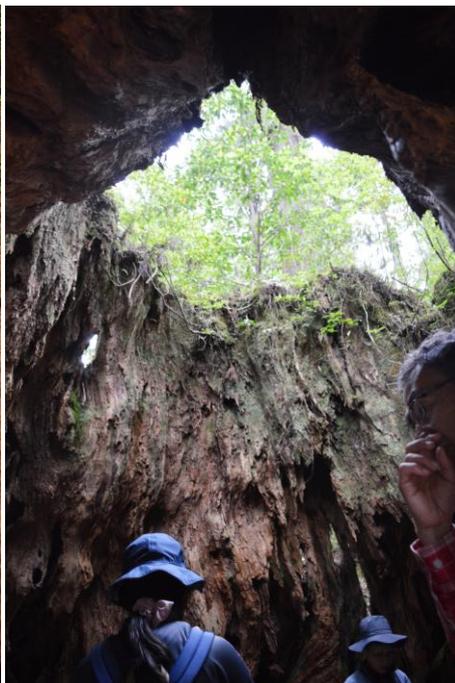
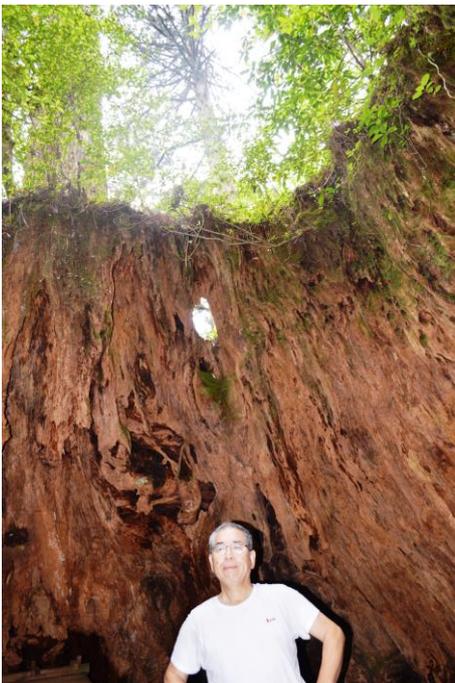
これがウィルソン株。Wikipediaによると「ウィルソン株（ウィルソンかぶ）とは、屋久島にある屋久杉の切り株である。

1586年（天正14年）、牧村の五郎七が足場を組み、豊臣秀吉の命令により大坂城築城（京都の方広寺建立とも）の為に切られたといわれる。胸高周囲13.8m。

ハーバード大学樹木園のための収集に、日本を訪れたアメリカの植物学者アーネスト・ヘンリー・ウィルソン（Ernest Henry Wilson）博士により調査され、ソメイヨシノなど多くの桜などの収集とともに1914年に西洋文化圏に紹介され、後年この株の名前の由来となった。縄文杉発見（1966年）の52年前の調査である。

株の中には清水が湧き出ており、内部に祠がある。またこの杉は枝が多く、使い物にならなかった先端部分は、下の沢に放置され、今でも残っている。」とある。

写真では外見が分かりにくいですが、中は左の写真のようになっている。



翁杉。登山ルートにはこの他にいろいろな杉の切り株がある。我々にとってはそれぞれ珍しいが、写真で見ると似たようなものばかりになってあいてしまう。

三代杉。屋久島町 (<http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/cust-facility/1604/>) によると「一代



目が約 2 千年で倒れ、倒木更新した二代目が約千年で伐採され、その上に切り株更新した三代目の樹齢が数百年。3 千数百年の間に命が受け継がれている。人工林が続く森林軌道沿いにおいて、三代目の小杉の若々しさと素性の良さが人目を引く。形質の良さから遺伝子を残す精英樹に指定されている」とのこと

三代杉株元

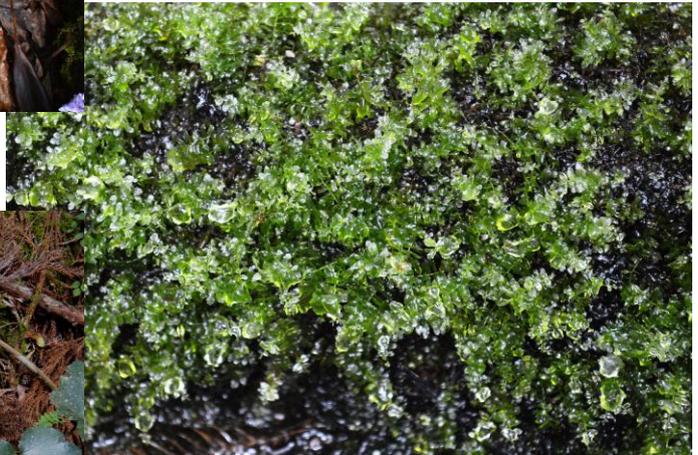


大株歩道はその名の通りこんな株間と岩の間をアップダウンしながら上って行く。

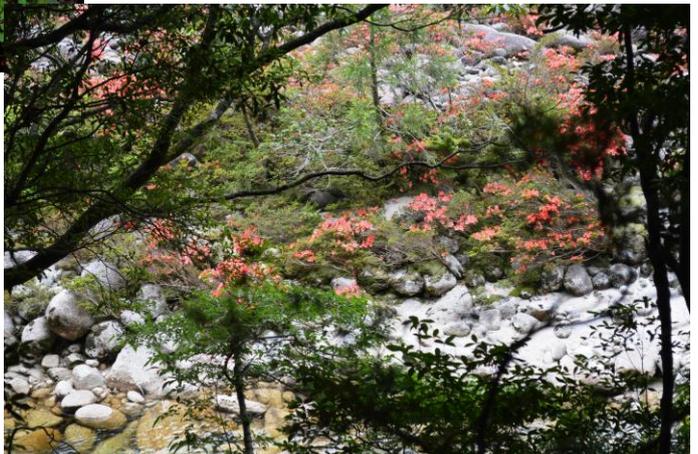


大株歩道出入り口

大株歩道を出れば、後はトロッコ道をひたすら下る。自分の場合は体力をかなり消耗していて、登山口まで非常に遠く感じた。やはり、帰りの体力を温存しておくことを念頭に縄文杉を目指さなければならぬと改めて思った。



これはサツキだったか





岩はほとんど花崗岩だそうだ。ただ、屋久島の花崗岩は目が粗く（結晶が大きく）もろいとのこと。上の写真の白い四角い結晶は長石で、普通我々が目にする花崗岩（御影石）はこんなに大きく結晶は発達していない。



まあ、とにかくそんなこんなで下山時刻が予定より数時間早くなった。老体に鞭打った体を癒すために温泉に行くことにした。屋久杉会館前のバス停にある案内所で訪ねると、宮之浦方面に帰るのなら「まんでん」はどうかという。屋久島空港で下車して、空港を背にして道路側を眺めれば大きな看板が立っているのですぐに分かるという。言われたとおりにすると左よりに「まんでん」の看板が見えた。そういうことで「縄文の宿 まんでん」に入った。風呂に入るのにバスタオルと普通のタオル一枚ずつが貸与されたが、バスタオルは

フロントに戻して、もう一つの小さめのタオルは持って帰ってよいというから持って帰った。立派な作りの宿で快適だったが、一風呂浴びるのに結構高かった。生ビール中 700 円。

3日目 6月7日(水): 島一周

(1) 白谷雲水峽

朝 10 時、宮之浦バス停発の予定だったが、直前に電話が入り 9 時 50 分でもいいかと。いいですよと言ったものの、意外に手間取った。それでも 50 分少し過ぎにバス停を発車。白谷林道を通って雲水峽へ。2 回目だが、ガイド付きだったから内容が濃かった。我々が行ったコースの目玉は弥生杉だ。



白谷林道はヘヤピンカーブが多く、また所によっては眺望もよい。下は、森の展望台と名付けられたところからの写真。眼下に見えるのは宮之浦港。



雲水峽入り口。ここで入場料を払う。



ガイドがコースを説明する。



入るとすぐにこんな大きな岩が現れる。



岩を越えるとせせらぎがある。足湯ならぬ冷たい清水に足をつけてで旅の疲れを癒やすグループあり。

弥生杉コースに入る



さらに分け入ると苔むした森となる



こけの中に杉の赤ちゃん。



ガイドから花の名前を覚えてもらったが忘れた。



弥生杉
屋久島町
(<http://www.town.yakus-hima.kagoshima.jp/cust-facility/1625/>)によると「白谷雲水峡地区では最も大勢の人が訪れる巨木。上部の枝分かれの様子や複雑な幹の形などから、利用不適として江戸時代に切り残された代表的な屋久杉といえる。比較的低いところにある屋久杉で、周囲に見事なイヌノキ林があり、照葉樹林帯にある屋久杉として周辺の森林植

生が興味深い。樹高 26.1m 胸高周囲 8.1m 推定樹齢 3000 年 標高 710m」という。でも、オーラはあまり感じない。



一昨日我々が単独でこの弥生杉を訪れた時は今回のコースの出口から弥生杉までを往復しただけだった。今回は我々が歩かなかった入口から弥生杉までのコースも歩いたので、感動もまた異なった。やはり、先達はあらまほしきものなり、である。

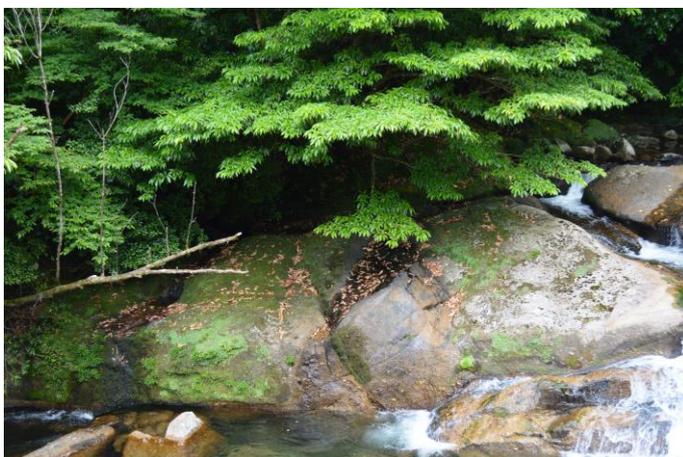
もう一つエピソードがある。先日我々が歩いた時、このガイドさんに会い、弥生杉まで後どれくらいありますか、と聞いたそう。自分は全く覚えていなかったが、ガイドさんが私たちに会って、そう聞かれたことを覚えていると話した。そう言われれば思い出した。あと 10 分くらいですよと言われて、

ほっとしたもののアップダウンが意外に多くて、それ以上の時間歩いたような気がする。それにしても初めての我々を覚えていたとは、我々があまりにも何か特異な風貌をしていたのだろ。

奥の看板の前がバス停
左奥の建物が管理事務所
左手前の建物は休憩所



この橋の後ろ(カメラマン側)にトイレがあり、
駐車場がある。



橋からの景色

この後、宮之浦に戻り屋久島観光センターで昼食、その後島一周の観光に出かけた。

雲水峡に行く前に屋久島環境文化センターで屋久島紹介ビデオを見て、学芸員から屋久島の気候等の説明を聞いたが、写真を撮っていないのでその時の模様は省略。

(2) 島一周



この橋は旧宮之浦大橋となるのかしら？宮之浦大橋はこの背後にあって県道 77 号線が通っている。川は宮之浦川。この写真は訪島第一日目のもの。

白谷雲水峡観光の後、屋久島観光センターで昼食。塩焼鯖定食を注文したが、鯖のでかさに驚いた。我が家で食べる鯖の 2 倍くらいの大きさであった。



さて、今からが島一周の観光となるのだが、下車して見物したのは、永田浜、大川（おおこ）の滝、中間ガジュマルの 3 カ所だけで、後は全部バスの窓からの見物だった。折しも永田浜あたりから天気が崩れだし、大川の滝、中間ガジュマルは雨の中の見物となった。

バスの中でのガイドの説明は全く覚えていないが、以下、いくつかの写真を紹介する。



永田浜の少し手前の風景。空模様が怪しくなってきた。

永田ウミガメ連絡協議会 nagata sea turtle liaison council (<http://nagata-umigame.com/>)によると「永田浜は日本一、そして世界有数のアカウミガメの産卵地です」とのこと。





これが永田浜。
 きれいな海と砂だ。高校生だろうか、若者がグループで何か学んでいた。

ウミガメが産卵しやすいように砂州が人工的に作られていた。これも台風が来ると砂が流されてしまうので、また砂を集めるとのこと。

サツマイモ畑のようだった。



永田岬 屋久島灯台



永田から大川までは西部林道とよばれ、車一台がやっと通れるくらいの道幅しかない。道幅を広くする話もあったそうだが、地元の人々の自然を守りたいという意向から開発されないままになっているらしい。その上世界遺産に指定されているのでなおさら開発できない。





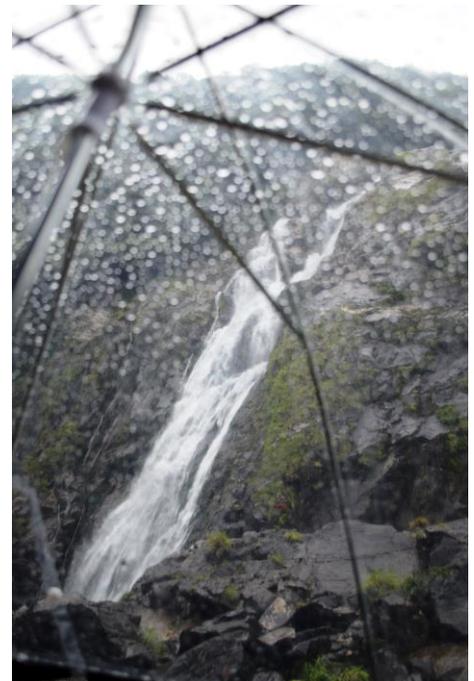
そのような西部林道の道路間近で野生の猿や鹿を見ることができる。



いよいよ雨がひどくなった。



大川（おおこ）の滝。
落差 88m。屋久島では川を「かわ」ではなく「こ」と読むそうだ。



中間ガジュマル。気根がグロテスクだ。



観光はこのガジュマルで終わり。

雨の中合庁前の屋久島交通の事務所まで行き、そこから別のバスで宮之浦まで送ってもらった。

4 日目 6 月 8 日 (木) : 楠川温泉

最終日。チェックアウトは 9 時 30 分まで。この日はどこに行くか迷った。せっかく屋久島に来たのだから「杉」にこだわるか、だとすれば紀元杉に行ってみようか、さもなくば温泉につかって疲れを癒すか。また杉を見ても同じようなもんだろうということになり、温泉に行くことにした。前日の夜、四季（とき）亭のお嬢さんから聞いていた近くの楠川温泉。バス停も楠川というのがある。

ネットで調べると楠川温泉は 9 時開業とあった。楠川着 8 時 51 分、宮之浦港 8 時 40 分のバスがあった。このバスに間に合うよう、まずは宮之浦港に行き大きな荷物をロッカーに預け、そのバスに乗った。前日宮之浦港にロッカーがあることを確かめていた。それで、朝はちょっと気ぜわしく朝食を食べる余裕がなかった。

さて、バス停の楠川に着いてバスの進行方向に歩けば温泉への入り口があるのか、反対方向にあるのか知らなかった。それで運転手さんにどちらの方向に歩けばいいのか聞いた。すると、楠川温泉はバス停の楠川ではなく「湯ノ川温泉」というバス停があるのでそこで降りなさい、下りたところの反対車線側に看板がありますのですぐに分かりますよ、と教えてくれた。その「湯ノ川」というバス停はバスの時刻表には出ていなかった。実際行ってみると楠川から湯ノ川までバスで数分かかり、これは歩くと結構な距離となる。聞いてよかったと心底思った。



楠川温泉入り口 左に行けば某民宿、右側の道を数分歩けば温泉場に着く。沿道には「うらじろ」が茂っていた。



屋久島町 (<http://www.town.yakushima.kagoshima.jp/cust-facility/1420/>)によると「楠川集落から 1 キロほど山側へのぼった湯之河にある温泉。古くから地域の住民の湯治の場として親しまれ、すぐ横を流れる湯之河のせせらぎが、湯ともに疲れた体を癒してくれます。

無色透明アルカリ性単純泉の冷泉を温めた温泉で、浴槽は 10 人ほどが入浴でき地元住民と観光客のふれあいの場にもなっています。5 月から 6 月にかけて、そばを流れる湯之河ではホタルが川面を乱舞し、幻想的な世界を見ることができます。泉質：アルカリ性単純泉 効能：神経痛、リュウマチ、皮膚病、傷等 源泉：約 27℃ 入浴時間：9 時～20 時 入浴料金：300 円」とのこと。

この情報でも最寄りのバス停が「湯の川」と書いていない。地名は「湯之河」だがバス停は「湯の川」らしい。

さて昼飯。この日は朝飯抜きだったが、どこに行けば飯が食えるか分からない。空港に行けばレストランはあるだろうと思い空港に行った。よかった、レストランがあった。生ビールとカツカレーを注文。食べていると飛行機が到着した。

食事後、空港発 11 時 08 分のバスで宮之浦港に戻った。宮之浦港着 11 時 33 分。フェリーの出発は 13 時 30 分、少し余裕があった。



墓地には花がいっぱい。



昨日の観光バスのガイドによると、屋久島の人は墓に花を供えることを欠かさないそうだ。それが島民の習慣らしいが、花代に月一万円だったか二万円だったか、使うようで大変らしい。



バスからの眺望。道路はきれいだが、バス代は少し高め感じた。



屋久島 2 到着



船室から桜島を眺める